令和５年度第１回　流山市環境審議会　議事要旨

日　時：　令和５年６月１日（木）１４時００分～１５時３０分
場　所：　流山市役所第１庁舎３階　庁議室
出席委員：
　金森有子委員、川村香純委員、朽津和幸委員、佐藤秀樹委員、須賀武司委員、新保國弘委員、今井泰彦委員、井上菊夫委員、福山啓子委員、横田輝雄委員、和田登志子委員
事務局：
　井崎流山市長、伊原環境部長、髙松環境政策課長、阿部環境政策課長補佐、花澤環境政策係長、小松主事、秋元主事
傍聴者：
議　題：
　第３次流山市環境基本計画の策定について（諮問）
　生物多様性ながれやま戦略について
資　料：
　第３次流山市環境基本計画の策定について（諮問）
　生物多様性ながれやま戦略の改定方針について（資料１）
　保全推進度クラス分け（案）（別紙）

発言者	要旨
事務局	
開会　市長挨拶	
市長	流山市はつくばエクスプレスが開業したことにより人口増加による都市化が加速して、特に若い世代が増加した。増加率はようやくピークを過ぎたが、今後も人口増加が進むことが予想される。その中で流山市に転入される方のほとんどは、都心からのアクセスが良く、利便性が高いにも関わらず、自然環境が充実しているという点を転入の理由としてあげている。市が自然豊かな環境や生物多様性を守っていくことが、流山のブランド形成、あるいは流山を選んだ方々のために大変重要だと考える。

	また２月には、2050年に二酸化炭素排出実質ゼロを目指す「ゼロカーボンシティ」を表明した。これは、市が補助をしながら、各個人の家で出来る様々な施策を展開していかないと実現できない。しかし、一人一人に理解してもらうのに時間がかかる上に、高齢者になればなるほど住宅の改修等に対して抵抗が出てくると考えられる。これらのことを考慮しながらゼロエミッション社会を形成していくことが世界的にも大変重要であるとされている。 これらを実現するために、様々な観点からの意見を織り込みながら、未来に向かっていける計画にしていきたい。是非、皆様には忌憚のない意見をいただき、2050年、ゼロエミッションにおいて流山市がモデルとなれるよう、お力添えを申し上げる。
市長	〈諮問書読み上げ〉
議事	
新保会長	本日の議題は、「生物多様性ながれやま戦略について」であるが、諮問があった、「第３次流山市環境基本計画」についても、併せて事務局から説明いただく。
事務局	次期環境基本計画について、現在の第2次流山市環境基本計画の期間が令和7年3月までとなっていることから、第2次計画が終了する前に策定し、諮問書にもあるように、次世代の流山市民に豊かな環境を残すため、より具体的で実効性の高い計画の策定が求められている。 今後、事務局において案を作成し、御審議賜りたいと考えているが、本日これから御審議いただく生物多様性ながれやま戦略と同時に進めることになる。別々に御審議いただくときもあれば、同日に御審議いただくときもあるかと思うが、期間的なこともあるので、なにとぞご理解の上、御審議賜るようお願い申し上げる。 続いて、生物多様性ながれやま戦略について。生物多様性ながれやま戦略は、平成22年3月に、全国の市町村に先駆け策定した。計画期間が50年と長期間に渡るため、概ね5年を目安に見直しを行うとしている。これまでの間、この戦略に基づ

	き皆様の御協力をいただきながら重点拠点でのモニタリングをはじめ活動報告書の作成、各種保全活動、様々なイベントや媒体を通じての啓発活動、まちなか森づくりプロジェクトなどによる植樹活動を行ってきた。 　本日は、2月3日の審議会で諮問した生物多様性ながれやま戦略について、改定の方針について御説明申し上げ、今後の進行について御意見を伺いたく開催した次第である。改定方針の内容については、この後担当から説明させていただく。審議会の皆様には忌憚のない御意見をいただきたい。
事務局	生物多様性ながれやま戦略の改定の方針について説明する。まず、資料1をご覧いただきたい。 　今回の改定は全体50年間戦略において3期目、中期段階としては2期目としての改定になる。まず、平成30年に、中期段階のスタートとして第1回目の改定を行い、その後、第2期戦略の重点プロジェクトとして生物多様性の保全・回復を優先的に行う重点地区・拠点を拡大し、2地区8拠点から5地区13拠点へ拡大をした。 　前回の審議会で、写真等で大まかにではあるが、それぞれの拠点をご覧いただいた。そして、この度、改定の方針として事務局が作成したのは「重点地区・拠点」の整理、またそれに伴う保全推進度のクラス分けの策定、である。 　現在、流山市は全国で稀にみる人口増加を続け、住み続ける価値の高いまちづくりを目指し、様々な取組みを行っている。その1つにあげられるのが、みどりの創出、緑化事業である。本市を選んだ人の多くが、都心に近く、みどりがあるということをあげている。生物多様性ながれやま戦略は、その根幹たる環境保全の指標となるべきものだが、現在の戦略では、その希少種の保全や緑を守ること、増やすこと、のみに焦点が当てられており、流山市の実態にあった戦略目標になっていないと言える。また、今年2月に実施した審議会（勉強会）においても、モニタリング調査するだけでは保全にならない、重点地区や拠点の所有者について御意見もいただいた。

	したがって、今回の改定の視点として、その拠点を「保全推進度」というものさしを設け、3つの指標でクラス分けを行い、流山市の特性である人口増加で都市化が進むという側面も考慮した拠点のランク分けを行い、取組みの優先度に強弱をつけたい。これにより、生物多様性を重視した環境保全という側面（科学的側面）と、区画整理や人口増加等で都市化が進む側面（社会的・経済的側面）のバランスを考慮した、流山市に合った保全を狙うことや、保全推進度を示すことで、市民の方々へ「重点地区・拠点」ごとの重要性、理解度、生物多様性の意識醸成を植え付けるといった大きな効果を狙うことが可能となる。 裏面にその手法、取組みについて示しているが、拠点として1カ所追加を行うほか、既存の13拠点について、保全性（希少種の種類数・総数、生物の種類数）、担保性（各地区・拠点の市の資産的要素）、制約度（各地区・拠点の管理責任の所在や取組みに対しての柔軟性）の3指標でクラス分けを行う。 このようなクラス分けの取組みにより、次に記載したような、年間の調査回数の効率化（この回数はあくまで植物相の例示である。回数等の細かい部分は戦略には明記はせずに、毎年定例で実施する戦略に基づく市民会議で決めたい）や、取組みに優先度をつけるといった方向にも繋げていきたい。 それでは資料２（別紙の表）をご覧いただきたい。一案として、それぞれの拠点をこのように設定した。 保全性は、その希少種数の多さや環境保全の必要性の点からランク分けを行った。担保性は、一般の方の土地であるとか、国交省の河川であるなど、今の環境が継続して担保されることを約束することが難しい箇所などが低くなっている。制約度が×になっているところは、調整池である。これは災害対策、治水を目的とした施設のため、保全へ向けた取組みは優先できない。 このクラス分けの取組みは、決して優先度が低いところをおざなりにすることが狙いではなく、「優先度に応じた、それぞれの

	拠点に合った取組みを作る」ことへ繋げることが目標である。また、最も重要である市民へ対しての生物多様性ながれやま戦略の目的の植え付け、意識の醸成を狙うためにも、それぞれの拠点の保全の取り組みやすさ、重要度を知ってもらうことがその一助になると考えている。 　雑駁ではあるが、以上が方針の案である。皆様からの忌憚のない御意見等をいただきたい。
佐藤委員	「八木中学校の裏は重要拠点との意見があるため」とあるが、具体的にはどういうことか。
事務局	「八木中学校の裏」は、これまで重点地区・拠点として設定していなかった。しかし、市民会議にて、モニタリング調査員をはじめとする有識者から、「大変豊富な自然環境が確認できる」、「保全の取組みの対象にしてみてはどうか」といった意見が多く寄せられた、ということである。また、地理的に現在の「総合運動公園周辺」に隣接しているため、新たな拠点として追加するのではなく、既存の拠点の範囲を拡大するという意である。
横田委員	制約度の評価について、「△＝保全に取り組む上で、所管している組織との協議が必要」とあるが、この「組織」とは何を指しているか。
事務局	「組織」とは、流山市の中の別の部署であったり、国交省であったりと、幅広い意味で捉えていただければと思う。
横田委員	「生物多様性」という言葉は、一般市民からすると抽象的である。保全する上で、何から取り組むかというのが大きな課題である。そういった認知度を広めるには、生物多様性や保全をテーマにした講座等を開催する必要があるのではないか。自治会、企業、教育施設、流山市にある様々なNPO団体等との連携が必要だと感じる。特に、自治会にやりがいを持たせるような働きかけをしてみてはどうか。
事務局	講座等の開催や様々な組織との連携は必要だと考えている。自治会への働きかけに関しては、自治会の事情を考慮し、所管であるコミュニティ課との意見交換をしながら進めていけ

	たらと思う。
今井委員	策定の方針は良いと思うが、今まで取組んで来た啓蒙活動や緑化事業などの総括のようなものがあった上で、次期策定の視点があるとより理解が深まると感じた。
事務局	これまでの取組みで得た結果を加味して、策定内容を計画していきたい。
井上委員	マクロ的観点で見たとき、この策定方針に反対意見はない。しかし、環境保全と都市化のバランスを取るのは容易ではない。特に私有地の場合、所有者が開発の判断をしたらそれを阻止できない。 例えば、市がリードして自治会に自然を残したい場所を挙げてもらい、長期的に保全を行うのも良いのではないか。また、市民への意識醸成は非常に重要だと感じるので、より具体的で実効性の高いものを示せるように議論していきたい。
金森委員	「みやぞの野鳥の池」は、第2期策定時には希少種であるガガブタが生息していると記載があるが、何故保全性が×なのか。 また、「芝崎小鳥の森」「にしひらい水鳥の池」が重点地区・拠点ではないと記載があるが、これは正しいか。
事務局	「みやぞの野鳥の池」に関しては、種類数はある程度生息してはいるが、保護種・希少種数が少ないという結果を基に保全性を×とした。しかし、質問を受け、各評価について具体的かつ明瞭な説明を付け加える必要があると感じた。 「芝崎小鳥の森」と「にしひらい水鳥の池」については、重点地区・拠点である。資料作成の際の確認漏れであったことを誠にお詫び申し上げる。また、この 2 拠点についても今後評価を行うこととする。
金森委員	確認だが、「みやぞの野鳥の池」ではガガブタの生息が消滅したという認識でよろしいか。
事務局	今手元に各植物種のデータを持ち合わせていないため、この場での回答は難しい。
金森委員	後日確認して、ガガブタがまだ生息していた場合も保全性

	は×のままか。
事務局	改めて細かく精査した結果、希少種等が確認できた場合には、現在のクラス分けの評価方法や結果を見直すことも考えている。
金森委員	データ数が大量で大変だと思うが、希少種等を見落としてしまうのはもったいないので、クラス分けに関してはより慎重に行うべきである。
事務局	クラス分けについては、有識者から意見を頂きながら理路整然とした結果を示せるような根拠づくりをしていきたい。
福山委員	クラス分けを見ると、人が多く集まる場所の評価が高く、そうでない場所が低いように感じる。人があまり集まらない場所を見捨てるようなことはしないで欲しい。
事務局	クラス分けによって、マイナスな伝わり方をしないように工夫をしていきたい。
和田委員	クラスが低い拠点について、今後重点地区・拠点から削除される可能性を鑑みて、その削除基準なども予め定めておくべきではないか。
事務局	評価をしていく上で、数値的根拠は必要になってくると考えている。それについては、有識者の意見を取り入れながら計画していきたい。
井上委員	クラス分け表を見たとき、×がついているとどうしてもマイナスなイメージを持ってしまう。×がついていても他のメリットや理由があるのであれば、それらを明記した方が良いのではないか。
事務局	マイナスなイメージを持たれないような工夫として、備考欄等を設けて、補足の情報や説明を明記していきたい。
新保会長	委員からの意見にあるように、誤解を招く恐れがあるので、クラス分け表自体は戦略で公表しなくて良いように感じる。 また、流山市のモニタリング調査は、調査頻度や調査員の知識という観点から見ると、他市と比べて優れている。クラス分けはその調査員たちの実際の意見を反映しているように感じている。 事務局の意図として、現在の重点地区・拠点のモニタリング

	調査や保全を中止するつもりはないことは理解している。仮に環境が悪化しても復元する可能性もあるので、その変化を長期的に調査することに意味がある。 　また、HP に公表されているモニタリング調査の結果報告が、上手くまとまっておらず、市民の方々がわかりづらいのではないかと感じるので改善願いたい。 　モニタリング調査にて様々な相を調査している中で、希少種について吟味する難しさと、モニタリング調査員の知識量にも個人差があるという点を理解した上で議論を進めていきたい。
福山委員	おおたかの森 S･C 前にいるたくさんの子どもを見ると、50 年後に人口分布が偏らないか不安になる。
事務局	経緯として「生物多様性ながれやま戦略」の 50 年というのは、環境省のガイドラインに沿って定めたものである。
和田委員	50 年計画を進めるにあたって、世代が変わってもしっかり受け継がれるような内容にしていきたい。
川村委員	環境保全や計画を細く長く続けていくには、モニタリング調査員の中で知識の受け継ぎをすることや、流山の特性でもあるたくさんの子どもたちにモニタリングの技術や機会を付与するような取組みも必要になってくるのではないかと思う。
事務局	子どもを含めた幅広い対象に向けて、これまでの取組みも強化しつつ、戦略に基づいて色々な事を始めていけたらと思う。
和田委員	将来的に希少種等のことを調べたり、情報共有をし合う自然博物館やインターネット上のコーナーがあればいいと思う。 50 年の間に技術も発達して可能になるのではないか。
朽津委員	生物多様性に関して全国でも先駆けであった流山は、今回の策定でも新しいアイデアを積極的に取り入れて欲しい。また、事務局が現時点で流山ではどんな啓発･広報活動をしているかを調べて、次回の審議会で発表し、何が不足しているか等を議論していきたい。 　また、重点地区･拠点について、各々がどういう場所なのかが把握できるような資料があるとより議論も充実するのではないかと思う。

新保会長	モニタリング調査の結果報告について、Excel の表だけで掲載されているのが見づらいので、見やすいように工夫する必要がある。 また、生物多様性系の講習やイベント等、特に子ども向けのものをもっと積極的に開催していくべきである。 本日委員から様々な意見が出されたので、事務局は次回までに整理していただけたらと思う。
閉会	